

第10回 廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成26年6月16日(月) 13:00~16:00

場所:Jヴィレッジ(福島県双葉郡檜葉町)

2. メンバー

政府: (議長): 赤羽原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部: 熊谷副本部長

復興庁: 豊島次長(福島復興局)

文部科学省: 西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省: 中津水産庁研究指導課長

国土交通省: 渥美河川環境課長

環境省: 宮崎水環境課長

廃炉・汚染水対策チーム: 糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、
上田対策官、豊口企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所: 野田所長、木野参事官、遠藤調整官、
有賀対策官、岡山対策官、小野対策官

東京電力: 石崎福島復興本社代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、
有馬バイスプレジデント、岩城福島第一原子力発電所副所長

福島県(オブザーバー): 玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁): 山本審議官、小坂地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 赤羽副大臣御挨拶

○福島も梅雨入りしたが、昨年秋には大雨で堰内雨水の漏えい等発生した。昨年秋以降、雨水については様々な対策が積み重ねられており、本日は、タンクの堰の二重化、海側エリアのフェーシング等について報告してもらう。

○タンクの設置について、まだ一部工事が遅延するケースがあると聞いている。前回会議でも管理体制の強化という指摘あったが、タンクの増設計画はこの会議の最も重要なテーマの一つであり、この点についても本日十分な議論をしていただきたい。

○地下水バイパスについては、5月21日に1回目の放水が行われ、週1回程度の頻度で放水が続けられている。慎重に運用をし、順調に進んでいると承知しており、その点についても報告いただく。

○6月2日から、凍土方式の遮水壁の工事にも着手している。これについても現場の状況について報告いただく。

○排水路の付け替えについては、前回の会議の後に私も現場に入りましたが、一条目の排水路が通水できるような状況になった。

○サイト内でのけが人、病人が多くなっているのではないかという点は心配している。梅雨入りし、温度も高くなってきたので、熱中症の対策等、大変な作業ではあると思うが、現場の安全管理についても議論いただきたい。

(2)緊急対策等の進捗状況報告

○東京電力から、汚染水に関わる現場進捗状況として、2・3号機海水配管トレンチの浄化・止水と護岸エリア対策の状況、地下水バイパスの運用、港湾内・外および地下水の分析結果、多核種除去設備の試験状況等について説明。また、H6エリアタンク上部天板部からの漏えい及び焼却工作建屋等への滞留水の誤った移送に対する対策の進捗、ノッチタンクからの滴下について説明が行われた。

○上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。

- ・地下水バイパス No.12 の揚水井については、引き続き傾向監視をしっかりと行っていただき、慎重に対応すべき。
- ・ノッチタンク内の水も放射性物質を含んでおり、しっかりと管理をするのが基本。他にも同様なものがないか、管理対象を整理するとともに、管理体制を構築すべき。
- ・ノッチタンクの雨水処理の進捗について定期的に報告すべき。

(3)現地調整会議で提示された課題への対応の検討

○東京電力から、4分野(タンク対策、循環ライン信頼性向上対策、自然災害対策、漏えい防止対策)について、対応方針、対応に当たったの検討課題、スケジュール等について説明があり、議論が行われた。主なコメントは以下のとおり。

- ・タンクは天候などによる遅れのリスクを考慮し、緊急時の措置も含めた計画とすべき。その上で、特に10～12月に対応できるよう前倒しを検討すること。
- ・タンク増設は、可能性のある方法(新設タンクの作業前倒し、タンクメーカーの追加、新設場所の追加など)を徹底的に検討すべき。

- ・タンク調達や規制・資格関係の整理など、国でサポートできるところは対応すべき。
- ・排水路の付け替えについて遅れが出ているが、それ以外の対策も含めて遅れが出ないよう工程管理をしっかりと行うべき。
- ・堰内の水の処理については、集中的に雨が降るリスクを勘案して人員確保含めた対応を検討するとともに、堰内の容量だけでなく短時間での移送能力増強の対応もとるべき。

(4) 次回以降の日程

○次回は7月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。